

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL. 31
平成30年9月17日

★第41回安全委員会が8月27日に開催されました★

今回の定例会議では、平成30年5月9日から平成30年9月10日までに起きた**16件**のケースについて報告をしました。

暴力発生件数と児童数

5月 男子児童7件 (加害児童 小2・2件 小3 1件 小5 3件 小6 2件)

6月 男子児童1件 (小2・1件)

7月 男子児童7件 (小2・3件 小4・1件 小5・2件 小6・1件 高3・1件、一時保護児童、SS・1件)

8月 男子児童1件 (小5・1件)

16件の内12件が二人の小学生男子の暴力でした。残りの**2件**は、高校生男子から小学生男子の暴力が1件・小学生男子同士の暴力でした。女子は0件でした。みんなで0件を目標に頑張りましょう。

安全委員会で話されたこと

2名の男子児童については、このまま暴力が続くようであれば暴力をした子もされた子も護るために、施設長からの厳重注意と安全委員会からの厳重注意を実施することになりました。この2名の児童は、新しく施設に入ってきた児童や新しい職員が生活に加わり、新しい環境に変わったことで落ち着かない生活になっているのではないかと考えられました。暴力を頻繁に繰り返す子のイライラ感の原因を子どもと一緒に考えてみることや、怒りの温度計を活用して自分自身で怒りの度合いを感じてみるなどの具体的な関わりについて、委員長はじめ各委員の皆様からアドバイスを頂きました。

小学校の校長先生からは、個別のかかわりでは落ち着いて学校生活を送ることができている子ども二人三人になるとお互いに誘い合い教室から出て行ったり授業に集中できなかつたりすることがあること、中学校の校長先生からは、「それぞれの進路は、人に流されるのではなく自分がどうしたいかをしっかり考えることができるといいですね」と子ども達の学校での様子を聞くことができました。

今回の報告ケースの中で、物を持って人を脅す暴力がありました。また、生活の中のルールを守れなかったり、職員が生活指導をすることで腹が立ってしまい暴力につながる場合があります。「自分の気持ちは暴力ではなく言葉で伝える」約束を守り安心して安全な環境を作ることが大切です。みんなで約束は守りましょう。厳重注意にならないようにみんなで協力し合うことが必要です。

お知らせ

☆今年度の安全委員会全国大会は、「山形県」で10月30日、31日に開催

されます。児童養護施設で生活している子ども達の安心・安全を

護るために澤委員長・園長・職員小野・職員松本・職員一戸が出席します。

☆今年度の安全委員会8周年記念は、12月の中旬に開催します。8年目に向けてまたスローガンを考え新たな目標に向かい頑張りましょう。



安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。今回のケースを話し合う中で、暴力とは別に、中高生の進路についての内容がとても印象的でした。進学について、自分の課題として児童自身が考えられるように支援していかなければいけないとお話があり、児童に進路について自分の問題として自覚できるように伝えていくにはどのようにしたら良いかと考えさせられました。この学びを自身の児童ケアに活かしていきたいです。

保育士 古矢景子

初めて定例安全委員会会議に陪席させて頂きました。園の職員だけでなく、児童相談所の方や、学校の校長先生など、様々な視点から子どもを見守り、情報を共有すること、連携することの大切さを改めて感じる事が出来ました。普段から研修等で安全委員会について学ぶ機会を頂いていますが、この定例会議ではより詳しい対応や事例を知ることが出来、学びを深められたと思っています。ありがとうございました。

保育士 多田夏美

羊ヶ丘養護園こども安全いん会だより

第2号 発行日 H30.9.25
発行所 多田夏美

8月27日(月)に、第41回 安全いん会が行われました！

↓は、5月から8月までの暴力が起った回数です。



今回は、同じ子がくり返し暴力をふるってしまったり、

いつも同じ組み合わせの子たちからケンカがおきているようです…(一一)

生活している中で、「ありがとう」や「ごめんね」をしつかり相手に伝えること、

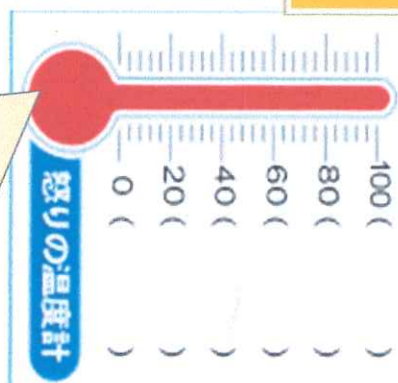
相手の話やきもちをきちんと聞いてあげること、

なかよくできることもあるのではないのでしょうか？

みんなが安心して養護園で生活できるように、相手を思いやる気持ちを大切にしましょう。

あまり暴力をくり返していくと安全委員会で「厳重注意」を受けることがあります。

「厳重注意」にならないようにみんなできんばつていきましょう！！



前回の子ども安全いん会だよりは、怒りの気持ちをマスコットにしました。今回は…怒りの温度計というものを紹介したいと思います。自分は怒っているとき、どんな行動をしたり、どんなことはを言ってしまうのかな？それを、5段階に分けて、それぞれ20、40、60、80、100()の中に、怒っている気持ちが強いぶんはんに書いてみてください。0は5つうちの1つです。



↑ T < さんの怒りのマスコット ↓

園にも園長先生と怒りの温度計をつけた手がいるそうです。先生に注意され何回も「死ね」と言ったTくん(小3・男の子)手足をバラバラさせ、怒りの温度計はマスコット100…！！前におしえたことがある怒りのマスコットを自分で絵にして、100回の換盤でやっと怒りの温度計は5つうちの1つになりました！さいごは先生に「死ねって言うてごめんね」とあやまることができました。



< 中高生の皆さんへ >

中高生の皆さんは、今の時期は進路が決まり、その目標に向かって頑張っている頃でしょうか？

何かのいい友達がこの進路に行くから…、ここに就職するっていうから自分も…と友達や周りの人に影響を受けるときとあると思います。

進路する手は、自分が何をやりたいのか、あるいはどんなことに挑戦してみたいのか、考えてみてね。何か悩んでいることがあったら、みんなの肩には希望という、希望を乗り越えてきた大生の先輩がたください！もしよかつたら話してみてもいいかも！



羊ヶ丘養護園 安全委員会だより

北海道胆振東部地震被災特別号

発行日 2018. 9月8日 発行者 ミウラ

平成30年9月6日午前3時8分ごろ、北海道厚真町で道内初の震度7の地震が発生しました。これまで、地震と津波等の被害を受けることがほとんどなかった札幌地方では、経験したことのない大きな揺れに多くの市民が恐怖におののきました。当園のある豊平区で観測された震度は5弱でしたが、子どもたちも職員も全員無事だったこと、建物等にも被害が発生しなかったに何より安堵いたしました。

当園の状況を心配されて、こぶしヶ丘の小川前会長や岡崎平和学園の小笠原施設長からお見舞いの電話を頂くなど多くの方々にあたたかい励ましを頂きました。本当にありがとうございました。

断水はなく食事に一切し支障がなかったことが幸いでしたが、地震直後より北海道全域にわたって停電となり電気が使えない不自由さを痛感しました。昨日7日の午後7時ごろ通電し、施設内では「やった！」と歓声と拍手が響き渡り、全員元気で、いつもの日常生活に戻っておりますことをお礼かたがた報告いたします。



地震後の子どもたちの様子

停電が続き、テレビが見られない、スマホが充電できず使えない、入浴できないなど子どもたちの不満やストレスが高まり、子ども間の対立やトラブルが発生するのではと心配しましたが、反対に心温まるエピソードがいろいろあったので、ここに紹介します。

♡子どもたちは地震発生直後、持ち寄ったお菓子で、おやつパーティをして楽しく過ごしたり、男子高学年ユニットの子どもたちは、ラジオで聞いた「ペットボトルを使ったランタンづくり」をして、懐中電灯の光を広げる工夫をして周囲を明るくし、暗闇を少しでも和らげようと取り組んでいました。おかげで部屋の中はとても明るくなった！

♡ある女子ユニットでは、中学3年の子が中心になって夏休みに外出した楽しかった水族館の思い出の絵を作ることを提案し、小学生から中学生が一緒になって、いろいろな種類の魚やタコ、イカなどを折って一つの絵を完成して暗い空間を明るくしていました。

♡もう一つの女子ユニットでは、高校生3年生の子が、給水用に保管していた水が少し温まった水を利用して、緊急美容室を特設。椅子を並べて座らせ「ちょっと冷たいけど我慢してね」といい、順番に小学生の子どもたちの髪を丁寧にシャンプーしてくれました。お風呂は入れなかったけれど、洗髪してもらいサッパリして喜んでいました。

♡小学生低学年の男子ユニットの子どもたちは、隣の幼児さんユニットの子どもといっしょに集まって、遊び相手になってくれました。

暗い中での幼児さんのお世話は大変だったので、職員はとても助かりました。

♡小学生の男子は、数日前に開催された園内祭の景品で配られた(ペットボトルの底に電池が貼ってあり、きらきら光るボトル)をもって、歯磨きがんばっていました。白い歯がキラリと光っていました(笑)

♡ 高校生の男子は、『星がきれい』だと小さい子に教えみんなで星空を見上げていました。家並み灯りや街並みの光がないので、いつもは見えない小さな星もたくさん見えて、本当にきれいな星空でした。

♡ 電気がつかない不安からなのか、作ったランタンのある所に、「電球ボトル」をもって集まり、カードゲームやトランプして過ごしていた姿にホッとさせられ、印象的でした。

幸いなことに今回の地震災害では、当園に深刻な被害がなかったため、子どもたちの地震後の様子をお伝えする安全委員会だよりを出すことができました。

私は、このように子ども同士が集まって寄り添う行動や、大きい子どもたちから小さい子どもへの思いやり、周りのことを気遣う優しさは、当園で「安全委員会活動」と続けてきたことと関連しているように思えるのです。

人は恐怖や不安が強ければ、強いほど、「安心と安全」を求めることは自然なことでしょう。不安だからこそ、仲間と一緒にいるとホッとすると、自分だけでなくみんなのために不安を減らし安心感をつくる努力をする、職員が指示したわけでもないのに、子どもたちが自然にとったこの行動から私たち職員が教えられることが多い。

我が園の子どもたちの成長を誇らしく思う。

でも、「これってやはり親バカかな〜」と大畑園長二人でと笑いました。

羊ヶ丘養護園 顧問 三浦 伸子



【 子どもたちの作った水族館の折り紙の絵 】